

## 「史都多賀城万葉まつり」 ～東北歴史博物館などで 10月7日開催～

10月7日(日)に市内の東北歴史博物館をメイン会場に、「第二十回史都多賀城万葉まつり」が開かれる。会場では、多賀城にゆかりのある大伴家持(おおとものやかもち)にちなみ、市民により考案された新しい郷土料理の「やかもち鍋」も販売される。



日本最古の和歌集「万葉集」編纂の中心的役割を果たしたとされる大伴家持は、晩年、陸奥按察使(あぜち)兼鎮守將軍となって多賀城に來在し、この地で没したといわれる。



まつりの目的は、大伴家持が生きた時代のロマンを「まつり」で再現することにより、多賀城市の歴史と未来を広く市民に語りかけるとともに、多賀城市の魅力を発信すること。市民による実行委員会が運営し、市民のアイデアを生かした手づくりのまつりとして定着している。

中学生が古式ゆかしい衣裳に身を包んで矢を射る射礼(じゃれい)や、万葉衣裳の人々が行列を組んで表現する歴史絵巻など、毎年多彩な催しで県内外から多くの方が会場を訪れる。

当日に販売される「やかもち鍋」は、市内の農家が栽培した野菜や古代米が使われている。家持の「持」にかけた紫色の古代米と白玉粉を練り合わせた「餅」、短冊の形に切ったダイコンやニンジンが入り、白だし醤油であっさりと京風の味だ。



【記事提供：多賀城市農業委員会】